

第3回 連合総研「日本の未来塾」閉会あいさつ

連合総研所長 藤本一郎

きょうは本当に田中理事長、ありがとうございました。お忙しいところ貴重な時間をいただきました。

私から、二点ほど御礼申し上げたいと思います。一つは、米中対立と日本の外交政策という演題でお話しいただきました。盛んにおっしゃられていたとおり、歴史観、大局観というものをキーワードに、また田中理事長のこれまでのご経験から、非常に具体的にお話をいただきました。われわれ聴いている者にとって、非常に中身が濃く、かつ、分かりやすお話で、深く理解することができたと思っております。

二つ目は、きょうの講演で、田中理事長が未来塾という言葉、確か、3回ほど使っていたと思います。この未来塾というのは、もともと労働法とか労働経済という分野だけではなく、より視野を広げて、われわれのスコープを広げていくということが、一つの狙いだったわけです。そういうことも意識していただいて、しかもわれわれに新しい目でいろいろ論してくれるような、あるいはヒントをいただけるようなお話をしていただきました。その二つの観点から、あらためて御礼申し上げたいと思います。

また、塾生の皆さまがたには、次回、来年早々にでも、この未来塾を開催したいと思いますので、あらためてご案内したいと思います。引き続きご協力をいただければと思っています。最後に、あらためて田中先生に御礼させていただきます。また、せっかくこういう機会ができましたので、また何かありましたら連合総研はじめ、塾生の方々との関係、これからなんらかの機会を作っていただき、交流を深めていただければと思います。ありがとうございました。